

サイバーセキュリティの共助を推進する組織「CMS-CSIRT」の設立について
～「地銀共同センター・MEJAR システム・ワーキンググループ」の取組み【第2弾】～

株式会社七十七銀行（頭取 小林 英文）は、MEJAR（注1）参加行およびNTTデータ地銀共同センター（注2、以下「地銀共同センター」）参加行とシステム・ワーキンググループ（注3、以下「CMS-WG」）での第2弾の取組みとして、サイバーセキュリティ分野での共助をさらに進めるため、「CMS-CSIRT」（注4、以下「本組織」）を共同で設立しましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1. 背景

昨今、金融業界を取り巻くサイバー犯罪、サイバー攻撃等の脅威は増しており、多くの地域金融機関はさらなるセキュリティ強化の必要性を認識しております。今回、MEJAR参加行と地銀共同センター参加行が協力し、サイバーセキュリティ態勢を一層強化するため、本組織を立ち上げることになりました。

本組織では、定例会等を通じた交流を通じて参加行のセキュリティ部門の関係構築を図るとともに、参加行のセキュリティ強化に資する情報共有や、セキュリティ担当者の能力向上に資する勉強会を実施してまいります。また、共同でのセキュリティ対応訓練や演習、参加行共同でのセキュリティ対策の将来的な実現を目指した調査・検討なども実施してまいります。

当行は今後も、MEJARおよび地銀共同センターの参加行との共同検討を通じ、強靱な経営基盤を構築するとともに、お客さまに安心・安全にご利用いただける商品・サービスの提供に努めてまいります。

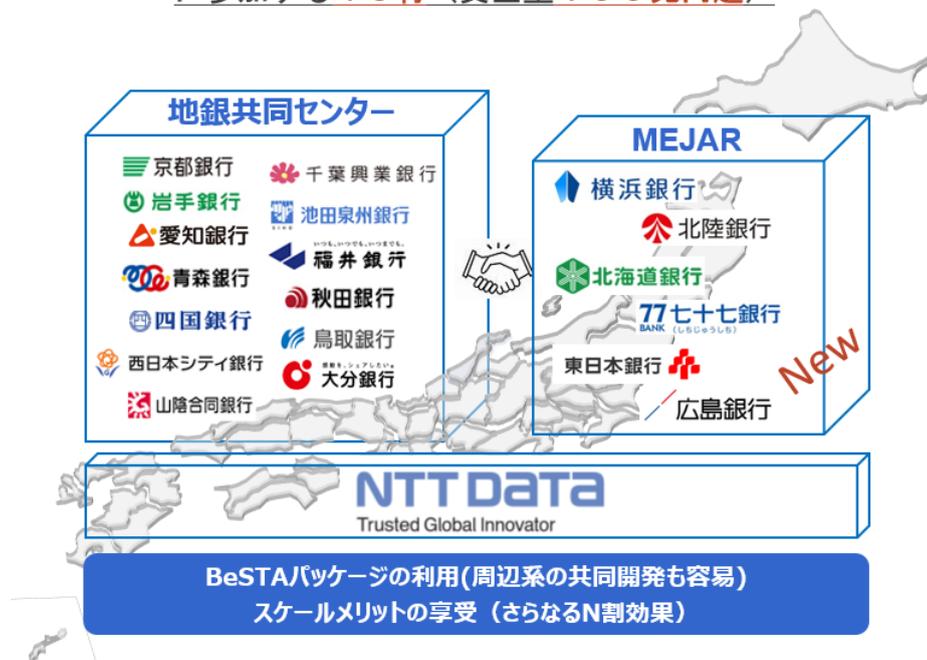
2. 本組織の概要

名 称	CMS-CSIRT
参加者	MEJAR参加行 6行（利用開始および銀行コード順） 横浜銀行、北海道銀行、北陸銀行、七十七銀行、東日本銀行、広島銀行 ※広島銀行は2030年度よりMEJARの共同利用を予定しています。 地銀共同センター参加行 13行（利用開始および銀行コード順） 京都銀行、千葉興業銀行、岩手銀行、池田泉州銀行、愛知銀行、福井銀行、青森銀行、秋田銀行、四国銀行、鳥取銀行、西日本シティ銀行、大分銀行、山陰合同銀行 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ部門の交流促進 ・参加者間の情報共有の促進 ・勉強会の開催 ・共同でのセキュリティ対応訓練や演習 ・共同でのセキュリティ対策実現を目指した調査・検討 など



【CMS-WGについて】

「地銀共同センター・MEJAR システム・ワーキンググループ」
 に参加する19行（資金量100兆円超）



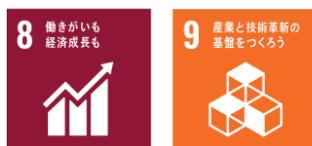
(注1) NTTデータが構築、銀行が主体で運営する、地方銀行・第二地方銀行向け基幹系共同センター

(注2) NTTデータが構築・運営する、地方銀行・第二地方銀行向け基幹系共同センター

(注3) MEJARおよび地銀共同センターが、共同化グループの枠組みを越えたシステム運用の効率化を検討するため、2021年11月に設立しました。

(注4) CSIRT(Computer Security Incident Response Team)は、一般的にセキュリティインシデント発生時の対応を行うチームと説明されますが、CMS-CSIRTでは平時においてインシデントに備えるための、情報共有や担当者のスキル向上、セキュリティ対策の導入を活動内容としています。

(関連するSDGs)



SDGs (Sustainable Development Goals)

2015年9月に、国連に加盟する全ての国が全会一致で採択した国際目標であり、17のゴールと、169のターゲットから構成されています。

七十七グループは2020年7月に「七十七グループのSDGs宣言〜もっと、ずっと、地域と共に。〜」を表明し、SDGsに対する取組みを更に強化するため、2021年10月より「SDGs実践計画」を策定しております。

以上